2007年3月期 決算概要

2007年5月14日

NECエレクトロニクス株式会社

代表取締役社長　中島 俊雄

http://www.necel.com/ir/ja/

エグゼクティブ・サマリ

Ⅰ．2007年3月期業績概要

- ✓ 売上高・損益ともほぼ前回見込み（2/22発表）通り

Ⅱ．2008年3月期業績予想

- ✓ 経営コミットメントである通期での営業損益黒字化必達
  （固定費削減＋若干の売上増で黒字化を実現）

Ⅲ．業績改善に向けた取り組み

- ✓ 2月22日発表の新経営方針を着実に実行中

Ⅰ．2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

Ⅱ．2008年3月期業績見通し

Ⅲ．業績改善に向けた取り組み

業績 サマリ

（単位：億円）	06/3期	07/3期				
	年間, 3/31	4Q		年間, 3/31		
	実績	実績	前年同期比	実績	前期比	前見込(2/22)比
売　上　高	6,460	1,714	+11	6,923	+463	+23
半導体売上	6,191	1,608	△13	6,597	+406	△3
営業損益	△357	△178	△13	△286	+71	+14
税前損益	△424	△263	△19	△354	+70	+36
当期純損益	△982	△284	+594	△415	+567	+35
フリーキャッシュフロー	△48	△176	+21	△118	△70	–
D/Eレシオ	0.48倍	–	–	0.51倍	+0.03ポイント	–
株主資本比率	41%	–	–	38%	△3%ポイント	–
為替レート	1US$=112円 1Euro=138円	1US$=119円 1Euro=156円	対US$　2円安 対Euro　16円安	1US$=117円 1Euro=149円	対US$　5円安 対Euro　11円安	

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

Ⅰ. 2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

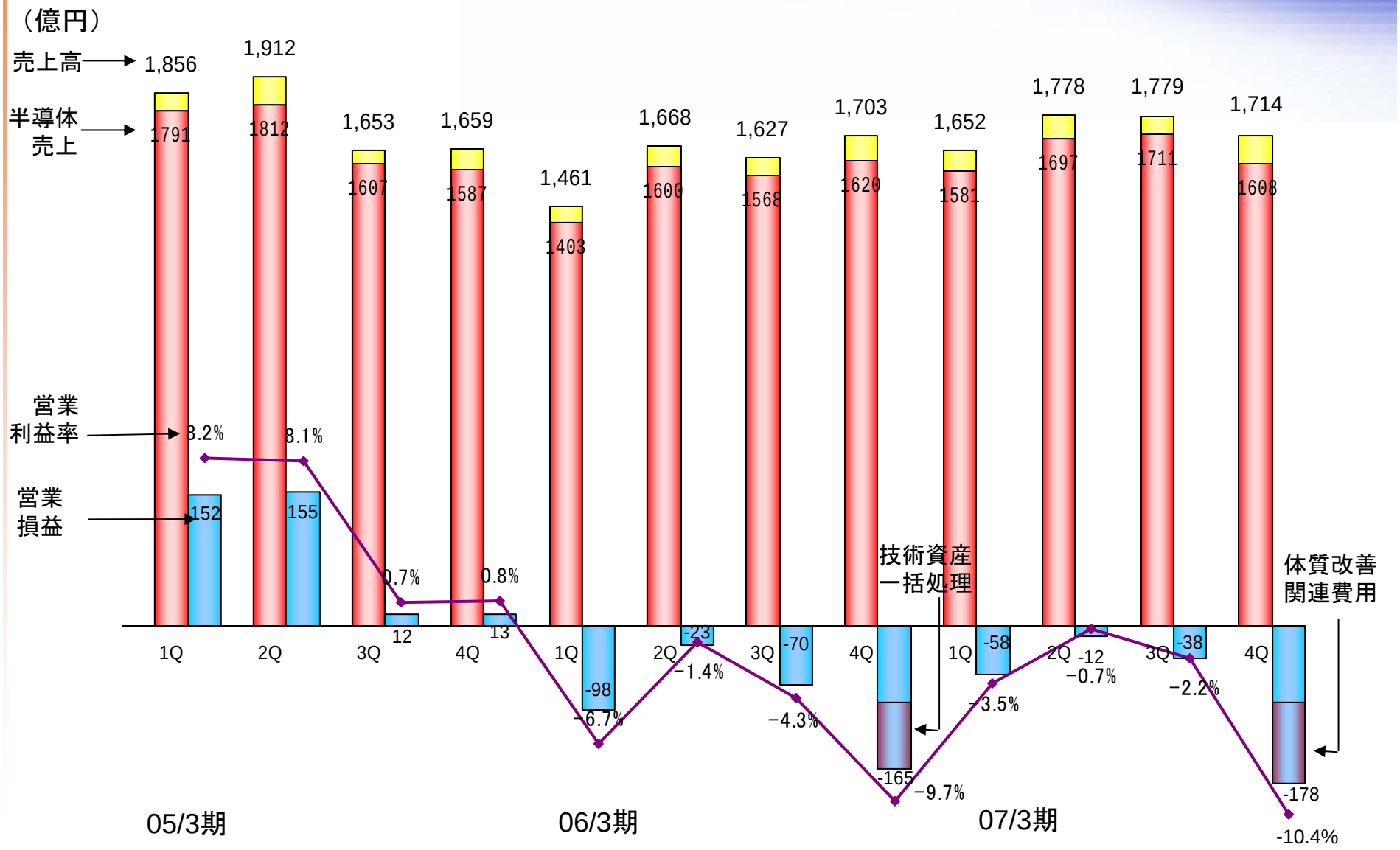
＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

Ⅱ. 2008年3月期業績見通し

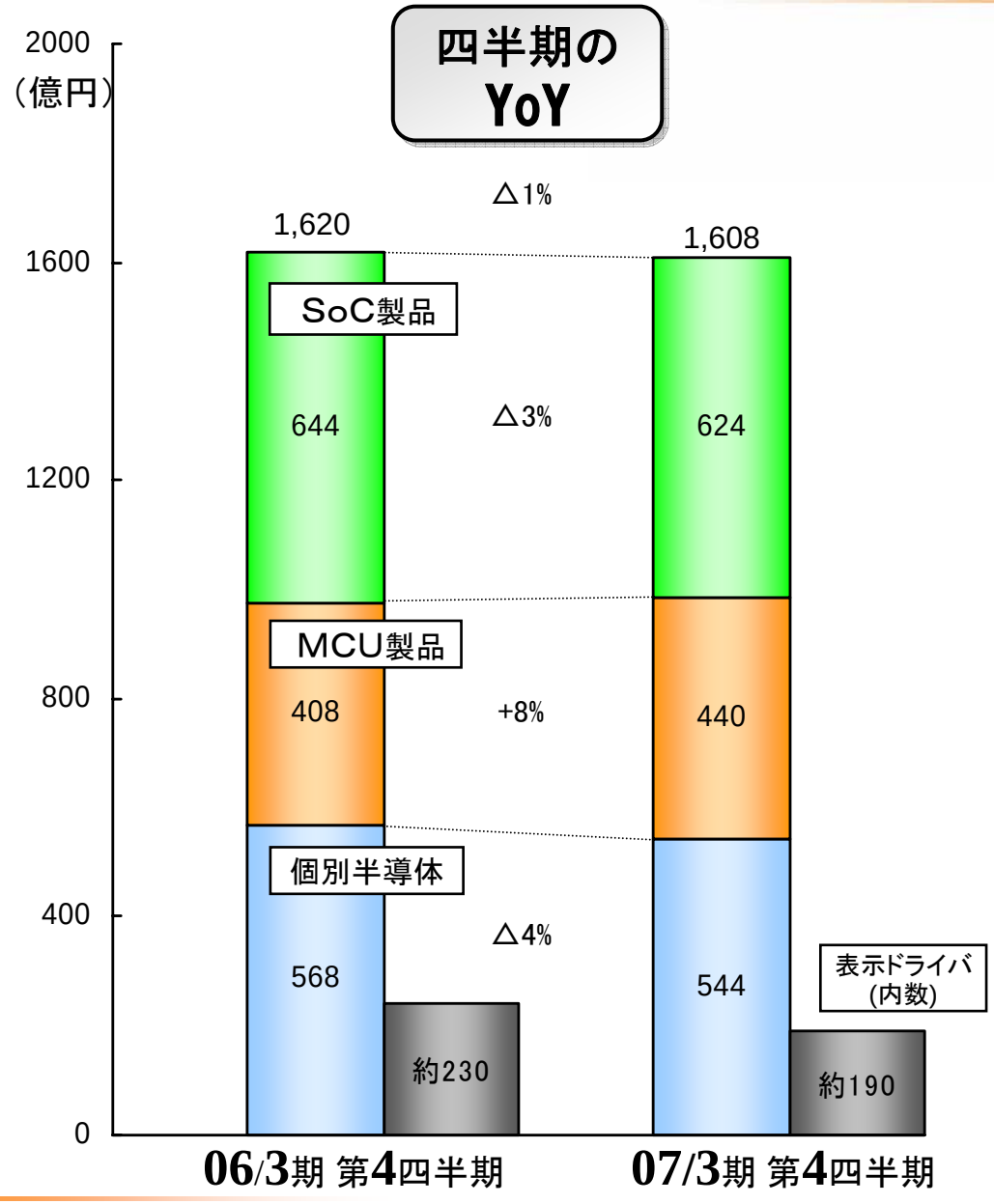
Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

四半期別業績推移



注: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。

製品別 半導体売上高(前年同期比較)



主な変化要因

SoC製品

＋)ゲーム機器向けLSI出荷の売上増

－)DVDドライブ用LSI、携帯電話向けデジタルベースバンドLSI・メモリの売上減

MCU製品

＋)自動車向け売上増

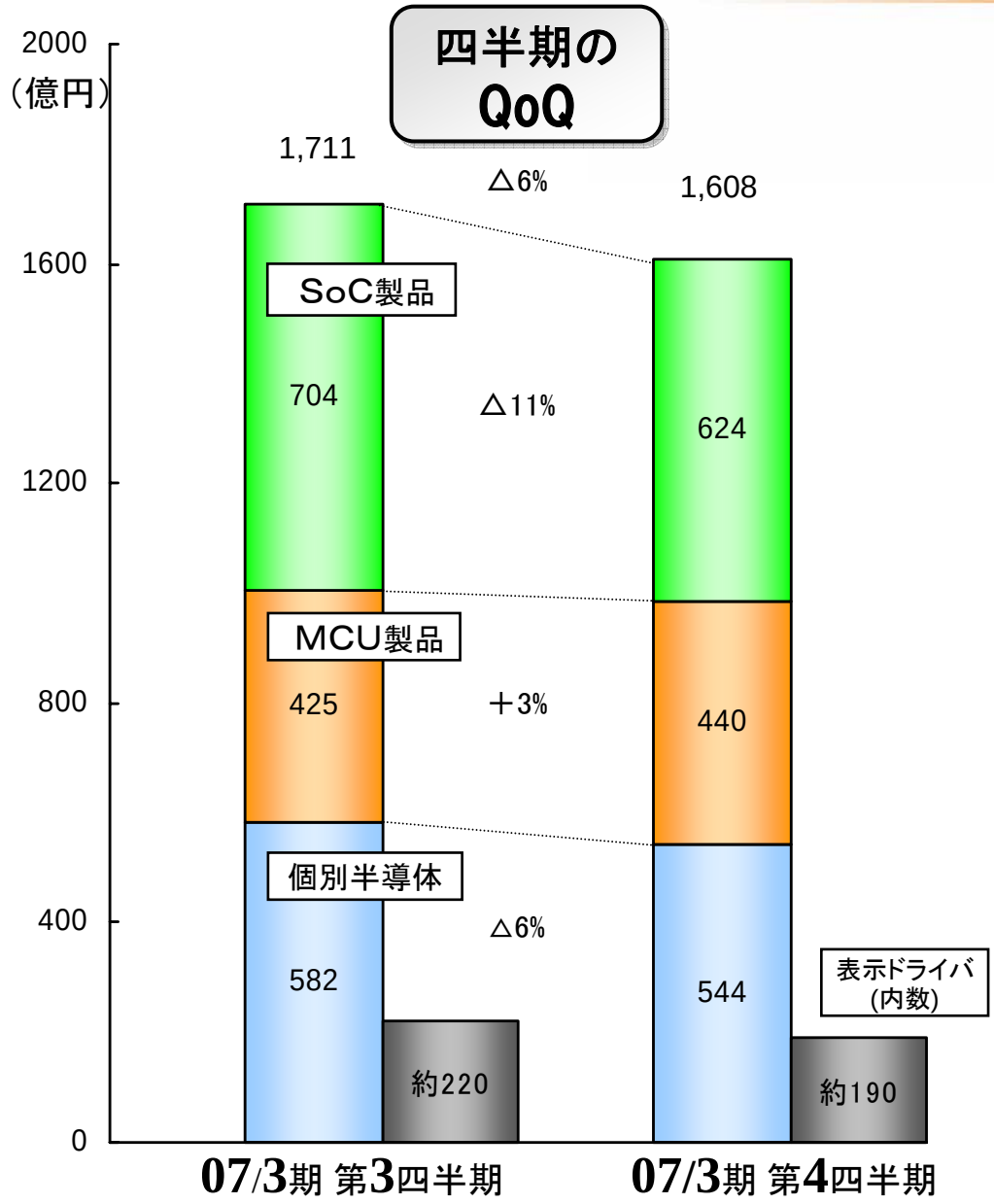
＋)オールフラッシュマイコンの売上拡大

個別半導体

＋)ディスクリート・化合物半導体の売上増

－)表示ドライバは大型/小型とも売上減

製品別 半導体売上高（前期比較）



主な変化要因

SoC製品

－）民生機器・PC周辺機器向け全般で、
季節調整の影響を受け売上減

MCU製品

＋）自動車向け売上増、汎用マイコンも微増

個別半導体

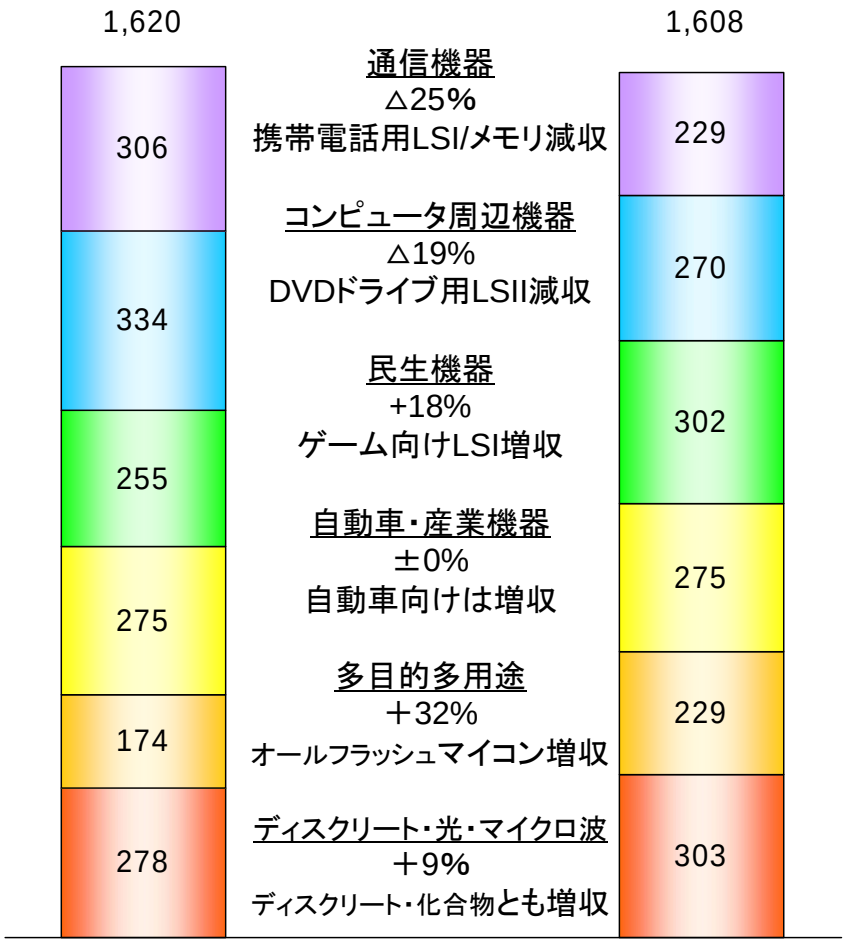
－）ディスクリートは季節減

－）LCDドライバは大型/小型とも減収

分野別 半導体売上高

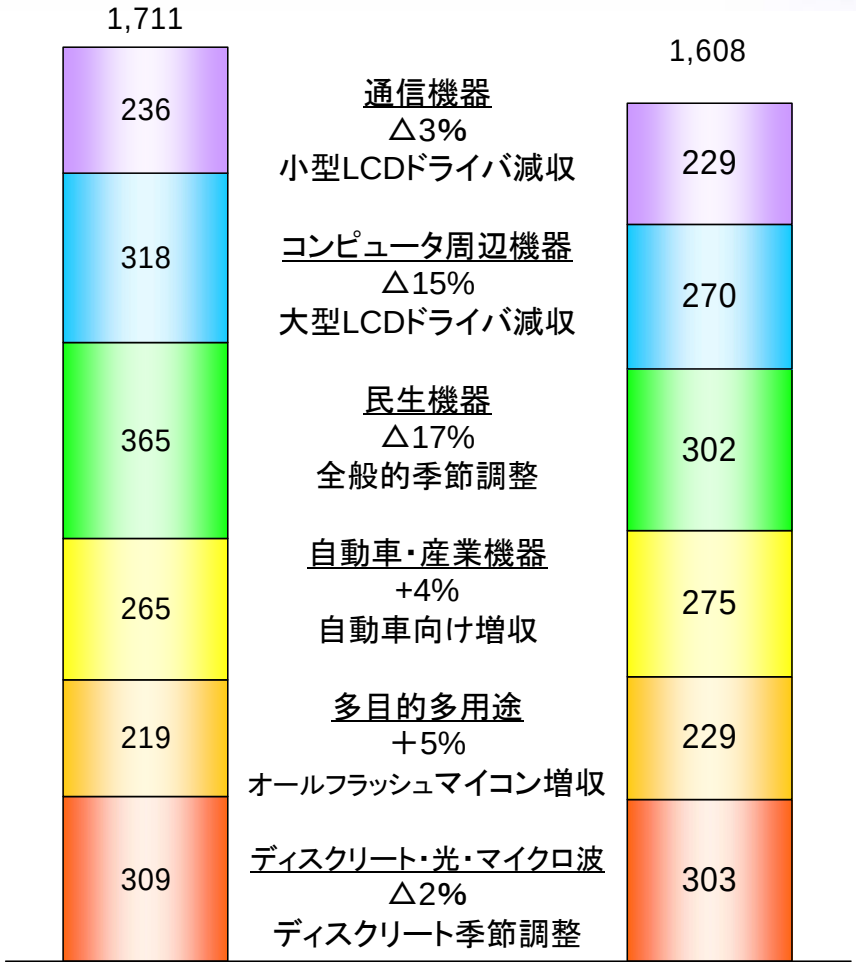
（億円）

四半期の YoY



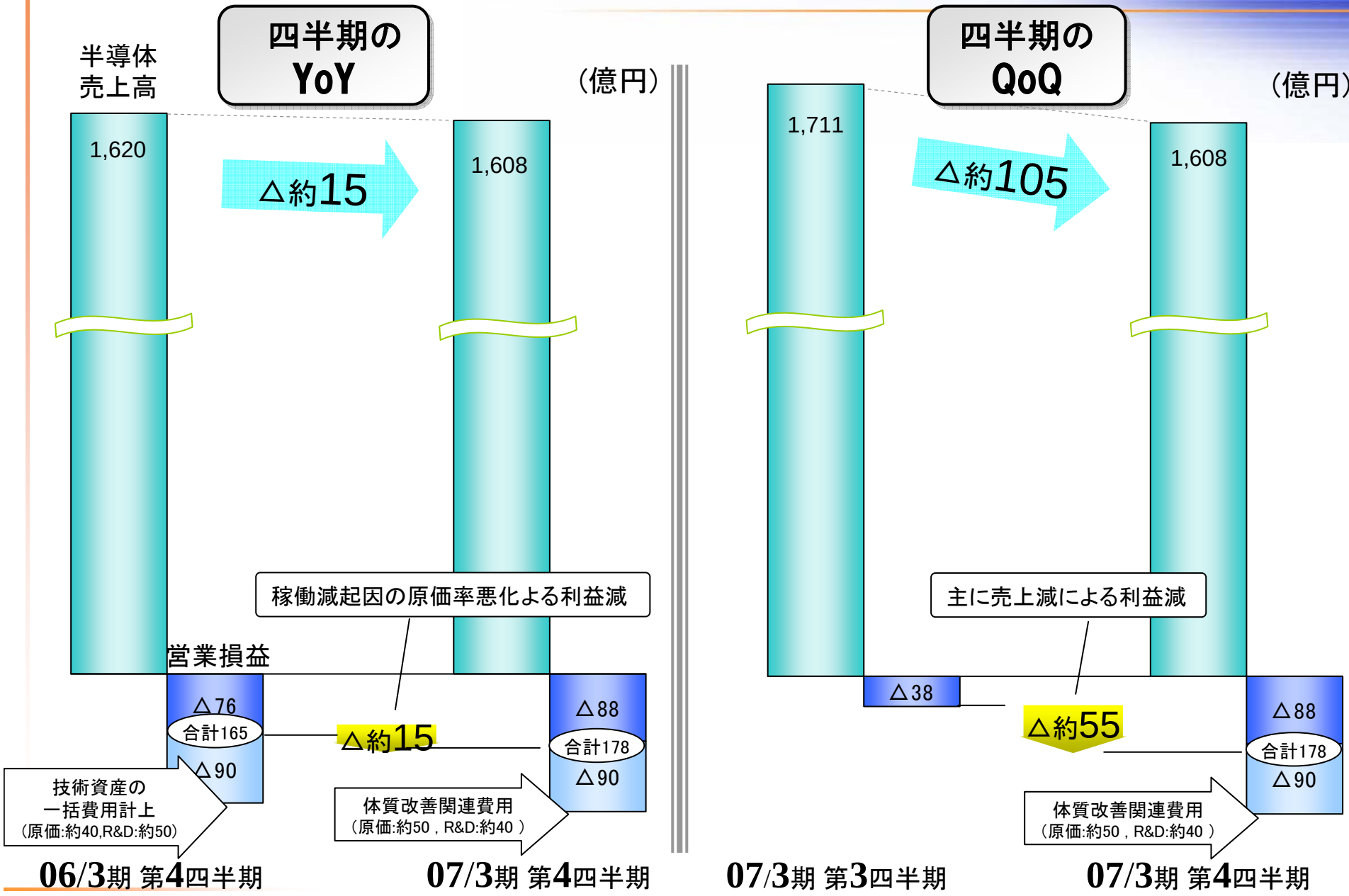
06/3期 第4四半期　　07/3期 第4四半期

四半期の QoQ



07/3期 第3四半期　　07/3期 第4四半期

営業損益の主な増減要因



Ⅰ. 2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

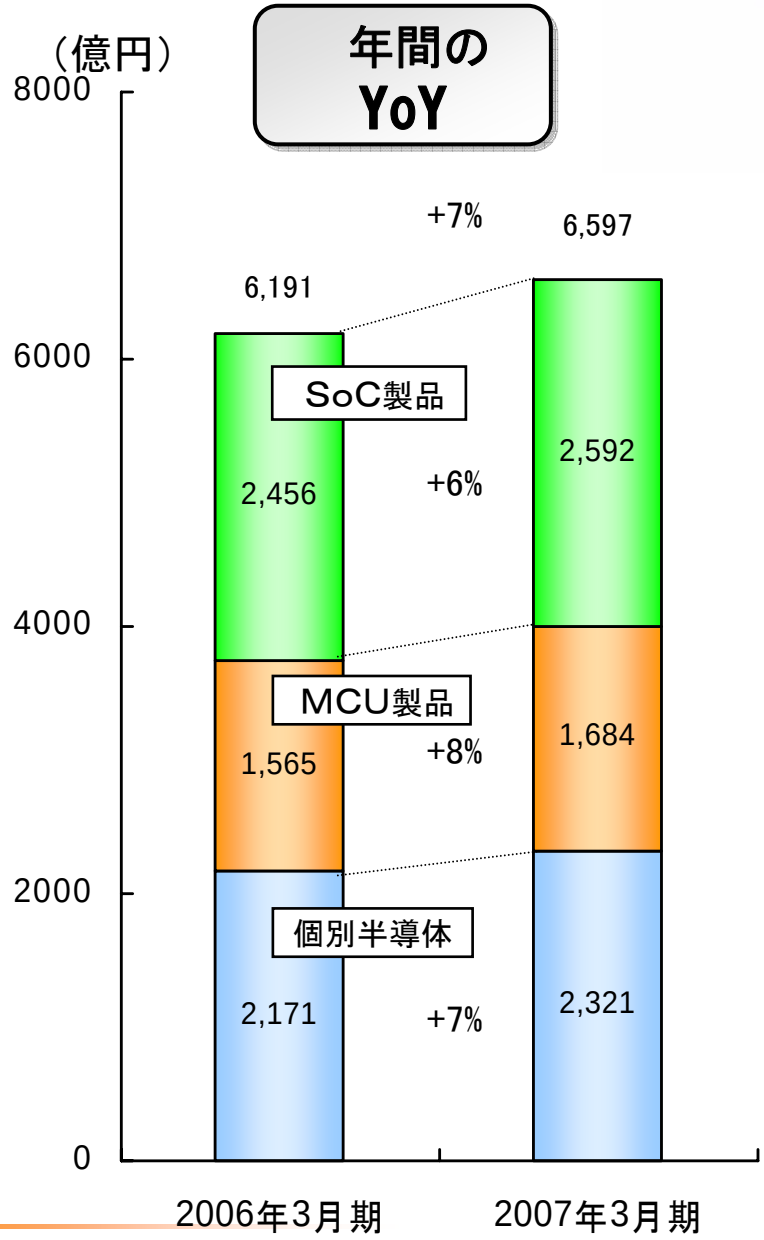
＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

Ⅱ. 2008年3月期業績見通し

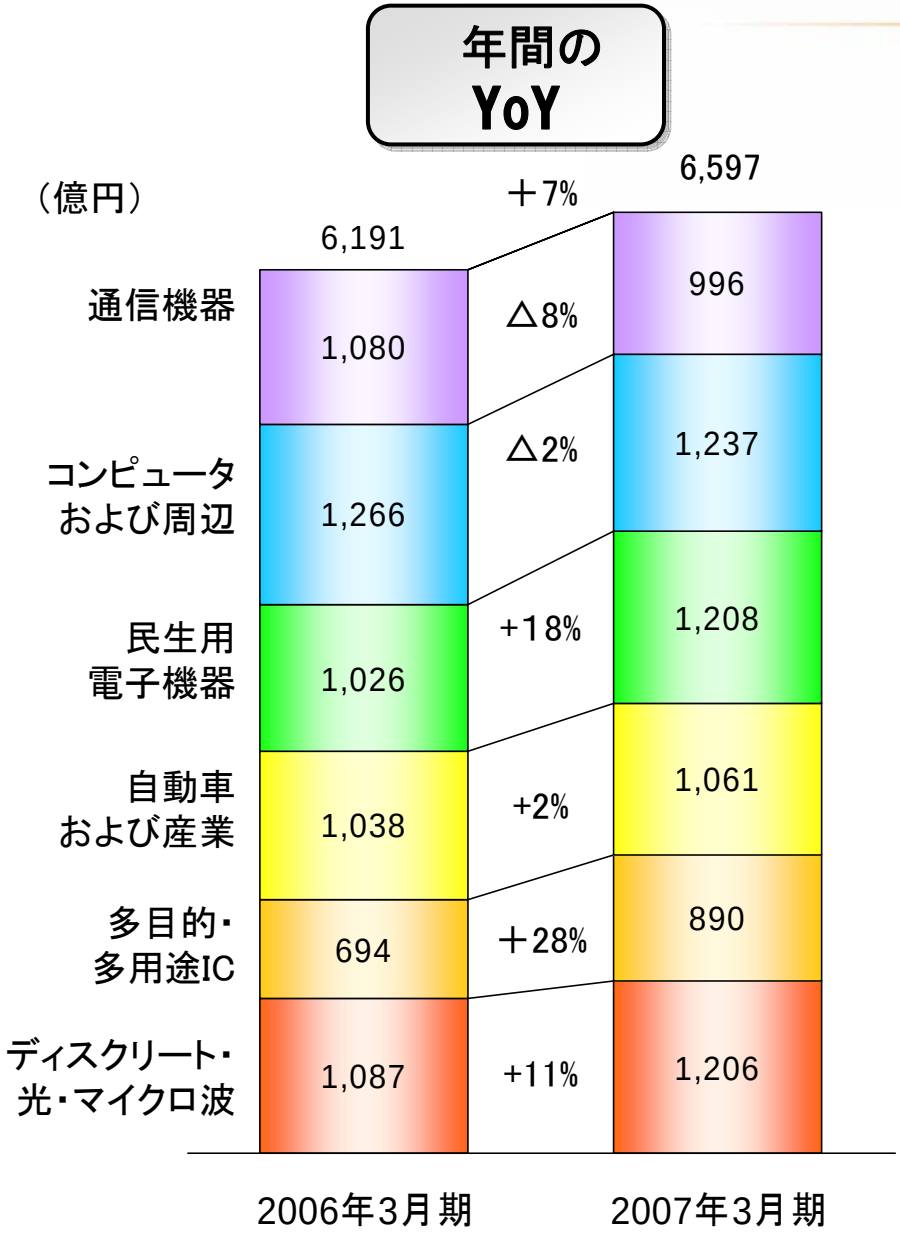
Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

製品別 半導体売上高



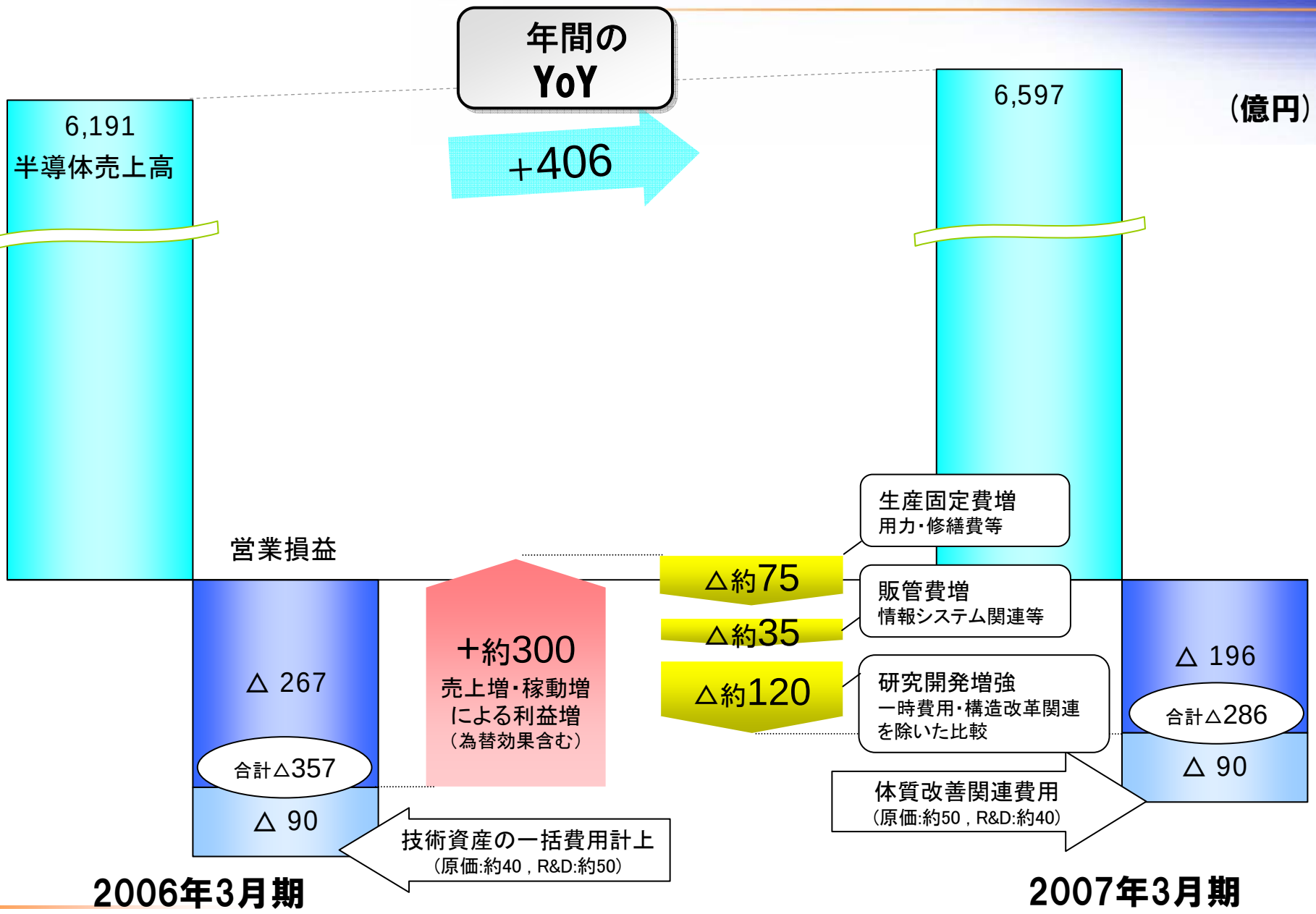
主なプラス要因／マイナス要因
SoC製品 ＋）DRAM混載製品の新規ビジネス立ち上り ＋）デジタルAV機器向けEMMAの売上増 －）携帯電話用メモリ（擬似SRAM）の価格下落と市場縮小
MCU製品 ＋）オールフラッシュマイコンの立上り ＋）自動車電子化率の着実な進展
個別半導体製品 ＋） LCDドライバは大型/小型とも売上増 ＋） ディスクリート・化合物もシェア拡大による売上増

分野別 半導体売上高



主な変化要因
・携帯電話向けメモリ（擬似SRAM）の大幅売上減 ・携帯電話向けコンパニオンチップ・小型LCDドライバは増収
・大型LCDドライバはシェア拡大による増収 ・DVDドライブ,プリンタ向けLSIが不調
・新規DRAM混載LSIの出荷開始 ・EMMAの売上拡大
・自動車は一桁後半パーセントの増収。 （産業機器向けマイコンの一部はオールフラッシュ化により多目的・多用途ICの分野にカウントされている）
・オールフラッシュマイコンの拡大 （自動車・産業等他分野からの回り込みあり）
・ディスクリート・化合物とも増収

営業損益の主な増減要因



体質改善関連費用について

ほぼ前回(2/22)計画通り体質改善施策を実施し、約150億円の関連費用を計上

費目	金額	主な内容
原価	約50億円（4Q）	・たな卸資産のスリム化等
研究開発費	約40億円（4Q）	・開発プロジェクト集約に関わる費用等
営業外費用	約60億円（通年）	・アイルランド工場、相模原8Φ試作ライン閉鎖 ・生産関連設備の廃棄等

バランス・シート

(単位:億円)	06/3	06/12	07/3
現金および現金同等物	2,111	2,126	1,854
受取手形および売掛金	1,139	1,051	995
たな卸資産	725	890	826
有形固定資産	3,021	3,057	2,928
その他の資産	457	393	356
総資産	7,453	7,517	6,959
支払手形および買掛金	1,229	1,507	1,325
社債および借入金	1,483	1,447	1,360
その他の負債	1,617	1,570	1,575
負債	4,329	4,524	4,260
少数株主持分	41	46	48
株主資本	3,083	2,948	2,651
負債および資本合計	7,453	7,517	6,959

D/Eレシオ(グロス)	0.48倍	0.49倍	0.51倍
株主資本比率	41%	39%	38%

繰延税金資産(NET)*	△16	2	△2

注記:上記繰延税金資産は、繰延税金資産と繰延税金負債NETして表示しております。

キャッシュ・フロー

（単位：億円）	06/3期		07/3期		
	4Q	年計	3Q	4Q	年計
営業活動により増加したキャッシュ・フロー	△5	499	195	127	667
投資活動により減少したキャッシュ・フロー	△192	△547	△271	△303	△785
フリー・キャッシュ・フロー	△197	△48	△76	△176	△118

NEC

Ⅰ. 2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

Ⅱ. 2008年3月期業績予想

Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

08/3期半導体市場に関する当社の見方

当社事業対象マーケットでは前年比2%～8%の成長と予測

（DRAM, FLASH, MPU除く半導体、 当社予測）

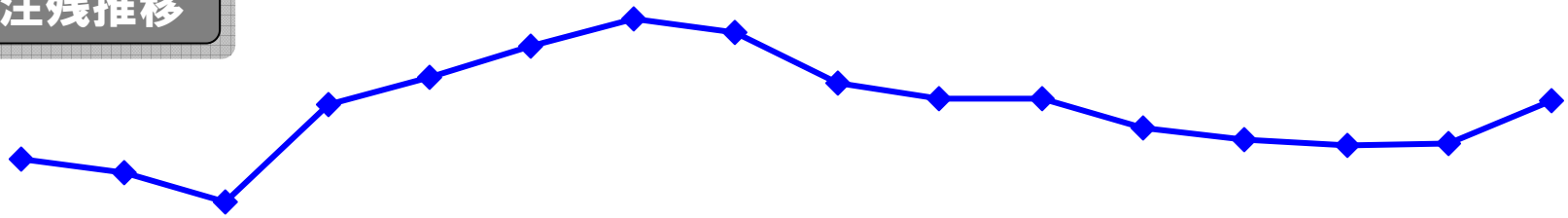
	前年同期比	マーケット環境
上期 （4-9月）	0 ～ +2%	上期前半は、在庫調整が一服し足元での受注も回復感はあるものの、製品売上ベースでは夏前からの寄与となり、上期全体での成長率は限定的。
下期 （10-3月）	+5% ～ +9%	オリンピックに向け年央から、デジタルテレビやPC関連等が急拡大し、半導体市場を牽引。 1-3月期もオリンピックを控え前年ほどの需要落込みは無い。
通期 （4-3月）	+2% ～ +8%	左記の幅の中央値である年5%の成長を見込む。

当社の受注残・受注高の推移

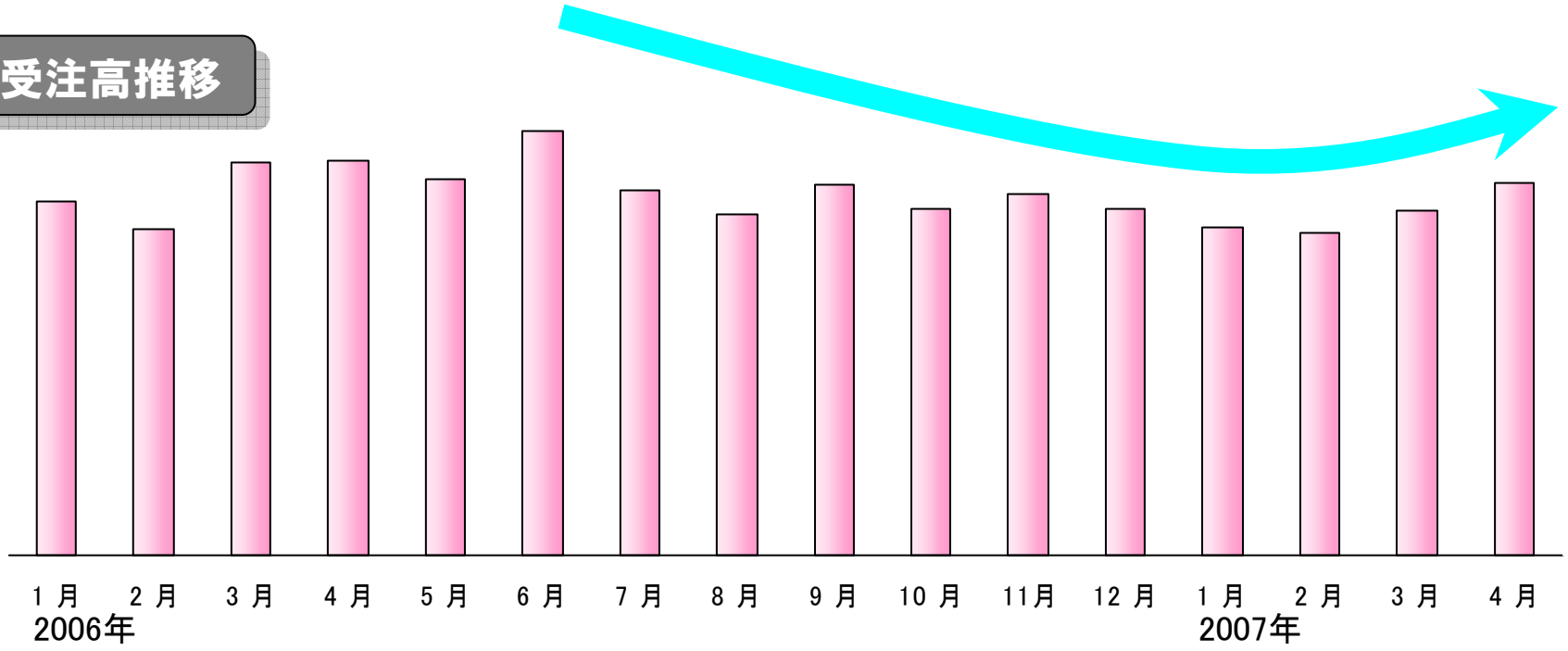
NEC

受注残・受注高とも底打ち、昨年度末から回復基調へ

受注残推移



受注高推移



08年3月期 業績予想

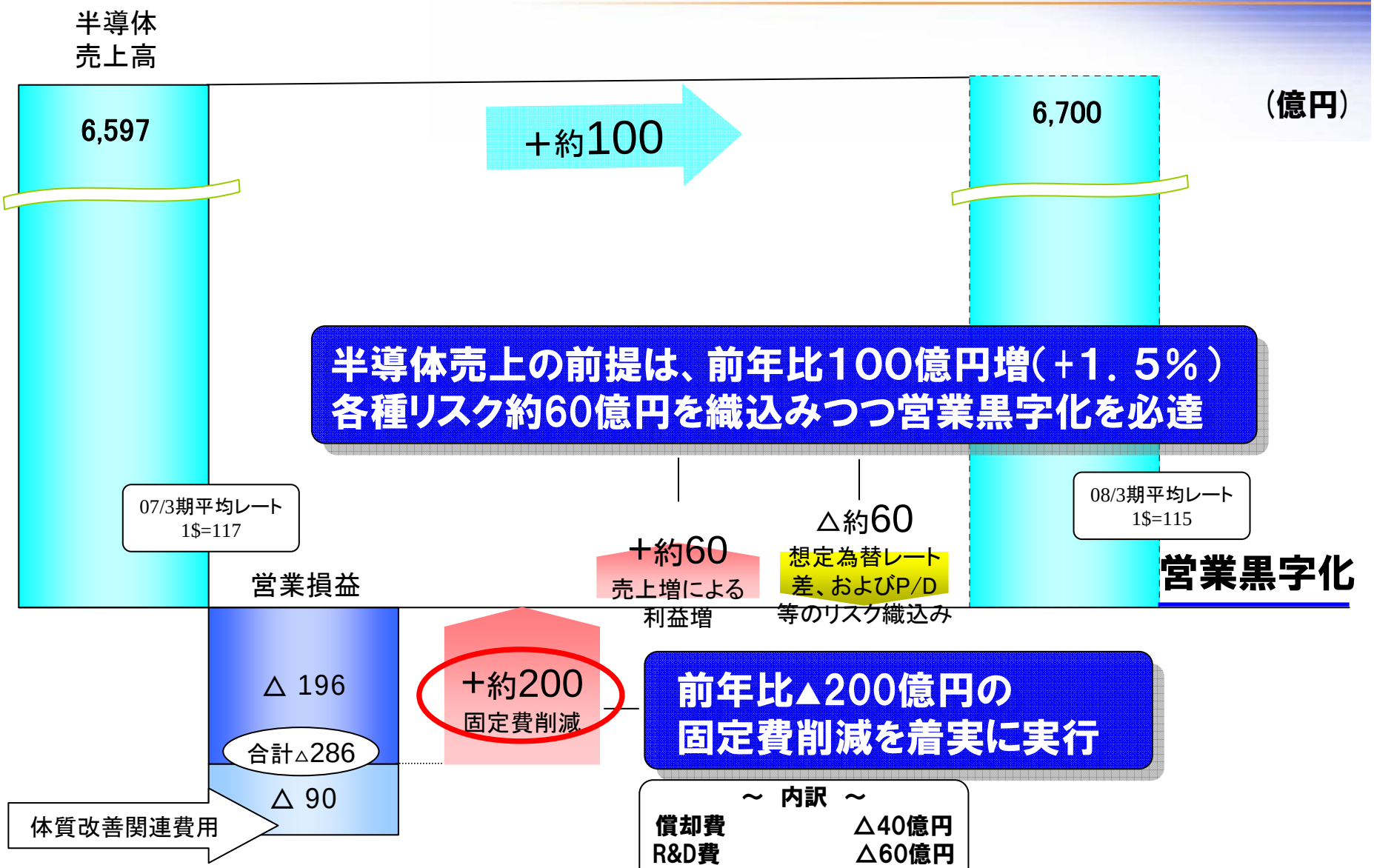
市場成長率見込み2%~8%の下限である2%を前提に業績予想を作成

（単位:億円）	07/3期		08/3期		
	中間期	通年	中間期	通年	
	実績	実績	見込み	見込み	前年比
売　上　高	3,430	6,923	3,350	6,900	△23
半導体売上高	3,278	6,597	3,250	6,700	+103
営業損益	△69	△286	△50	0	+286
税前損益	△56	△354	△120	△100	+254
当期純損益	△74	△415	△150	△150	+265

為替レート	1US$=115円 1Euro=145円	1US$=117円 1Euro=149円	1US$=115円 1Euro=150円	対US$　2円高 対Euro　1円安

注1: 当社は米国会計基準を採用しておりますが、「営業損益」は売上高から売上原価、研究開発費、販売費および一般管理費を差し引いたものです。
注2: 減価償却方法の変更はありません。
注3: 予想は2007年5月14日現在

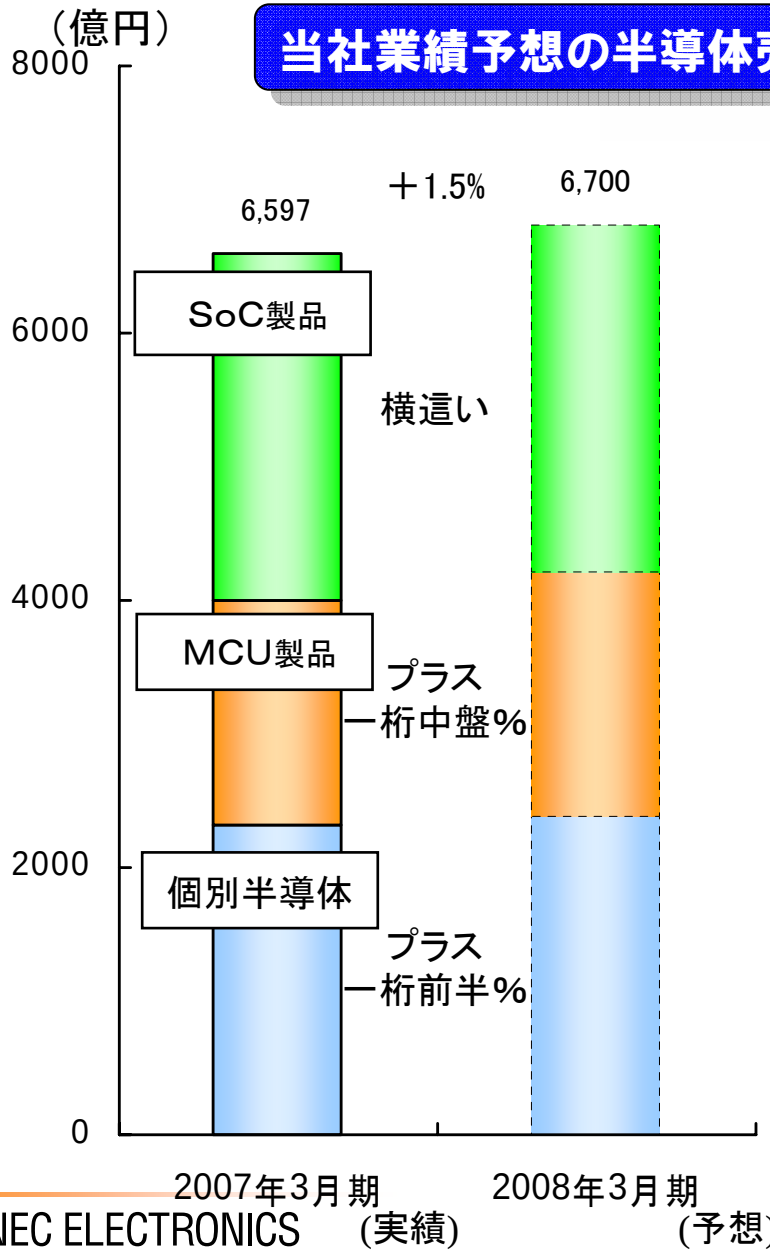
業績予想における営業黒字化の考え方



製品別 半導体売上高

NEC

当社業績予想の半導体売上(前年比1．5%増)の内訳



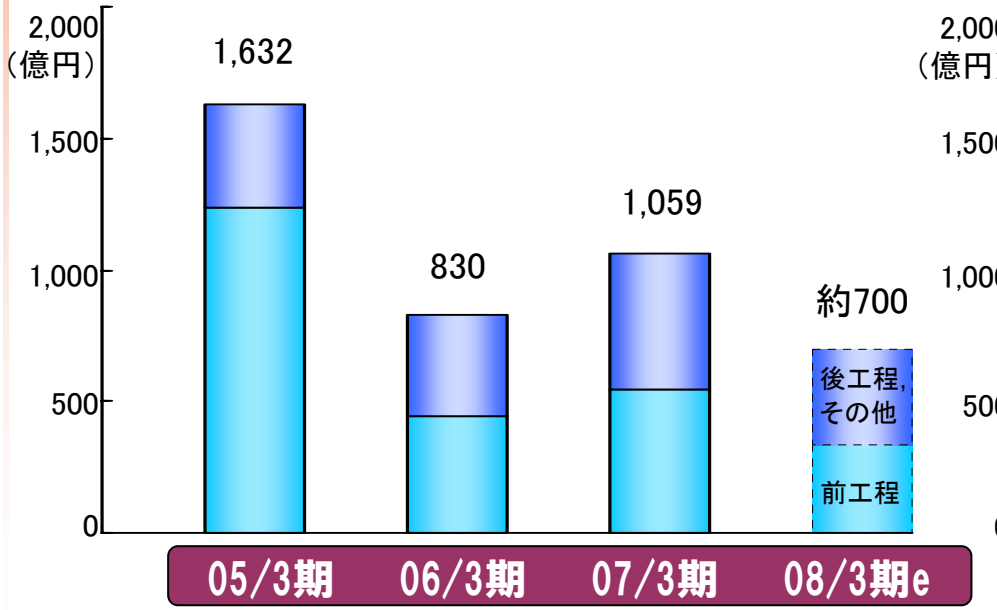
主な変化要因
(＋) 民生用DRAM混載LSIは着実に売上拡大 (＋) デジタルAVプラットフォームEMMAの売上増 (－) 携帯電話向けDBB・メモリ(擬似SRAM)の売上減
(＋) オールフラッシュマイコンの本格立上り (＋) 自動車電子化率の着実な進展とシェア拡大
(＋) LCDドライバは、TV急拡大だが、 小型の調整や価格リスクを織込み微増 (＋) ディスクリート・化合物は着実にシェア拡大

設備投資と償却費・リース料

NEC

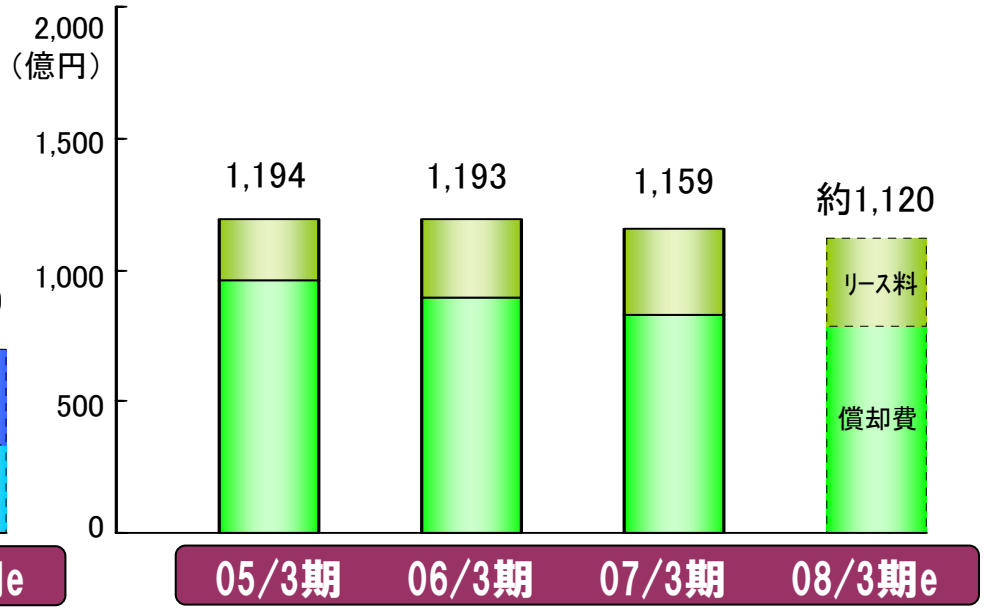
- 08/3期の設備投資額は700億円に抑制
- 車載用マイコンや55nm等の高付加価値製品に投資集中

■ 設備投資額



(有形固定資産のみ、納入ベース)

■ 償却費＋リース料



（償却費はキャッシュフローベース）

Ⅰ. 2007年3月期業績概要

＜ サマリ ＞

＜ 第4四半期 ＞

＜ 通期 ＞

Ⅱ. 2008年3月期業績見通し

Ⅲ. 業績改善に向けた取り組み

新経営方針(2/22発表)の進捗状況

NEC

新経営方針の着実な実行に向け、全社プロジェクトを立ち上げ

項目	主な施策	進捗状況
フォーカス分野の絞込みによる製品競争力強化	約600人相当の技術外注削減	済み
	約400人の社内開発リソースのシフト	約半数済み (今年度中に400名完了予定)
生産マップ再編によるコスト削減	再編の詳細スケジュール策定	済み
	顧客認定取得準備	着手
	関連設備の手当ての準備	着手
損益管理強化のための事業組織体制	SoC/MCU/個別半導体を損益責任単位としてBU化 ・*部門数を18削減(59→41)し、人材の流動性と効率化を促進	組織変更済み
08/3期黒字化に向けた固定費削減	技術外注費削減	済み(上記)
	設備投資抑制等による生産固定費削減	投資削減予算策定済
	従業員給与/賞与カット	実施中

(進捗状況は2007年5月14日現在)

まとめ

- 今年度の営業黒字化は、経営陣全員による「最低限のコミットメント」であり、必達する
- さらに経営体質の改善に努め、一層の営業利益の上積みを図る

NEC

NEC Electronics Corporation

（将来予測に関する注意）

本資料に記載されている当社および連結子会社（以下NECエレクトロニクスと総称します。）の計画、戦略および業績見通しは、将来の予測であって、リスクや不確定な要因を含んでおります。実際の業績等は、様々な要因により、これら見通し等とは大きく異なる結果となりうることをあらかじめご承知願います。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因としては、　（１）NECエレクトロニクスの事業領域を取り巻く日本、北米、アジア、欧州等の経済情勢、（２）市場におけるNECエレクトロニクスの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、（３）激しい競争にさらされた市場においてNECエレクトロニクスが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを供給し続けていくことができる能力、（４）為替レート（特に米ドルと円との為替レート）の変動等がありますが、これら以外にも様々な要因がありえます。また、世界経済の悪化、世界の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の低迷等により、実際の業績等が当初の見通しと異なる結果となる可能性もあります。

以下、ご参考資料
～　ビジネスハイライト　～

ビジネスハイライト： SoC

NEC

デジタルコンシューマ（モバイル）機器向けアプリチップ　MP201

ソニー：ウォークマン「NW-A800シリーズ」に採用

携帯電話向け開発資産のデジタルコンシューマ分野への展開事例

- ✓ 低消費電力でのQVGA動画・音楽再生に最適なアプリケーションプロセッサ
- ✓ ソフトウェア・プラットフォーム ‘Ovia’ に準拠
- ✓ IP流用により機種展開が容易

ビジネスハイライト：マイクロコンピュータ

NEC

オールフラッシュマイコンの拡販基盤強化事例

デモ・システム、拡販ボード	WEB	セミナ	書籍

V850+ヤマハYGV626

掃除機デモ

ReferSTAR
78K／Kx2

eラーニング

オープンセミナ(東京)

78K0

V850+アクセルAG301

PCファン デモ

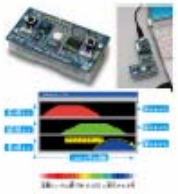
K0R 拡販ボード

サンプルプログラム

オープンセミナ(大阪)

音声合成デモ

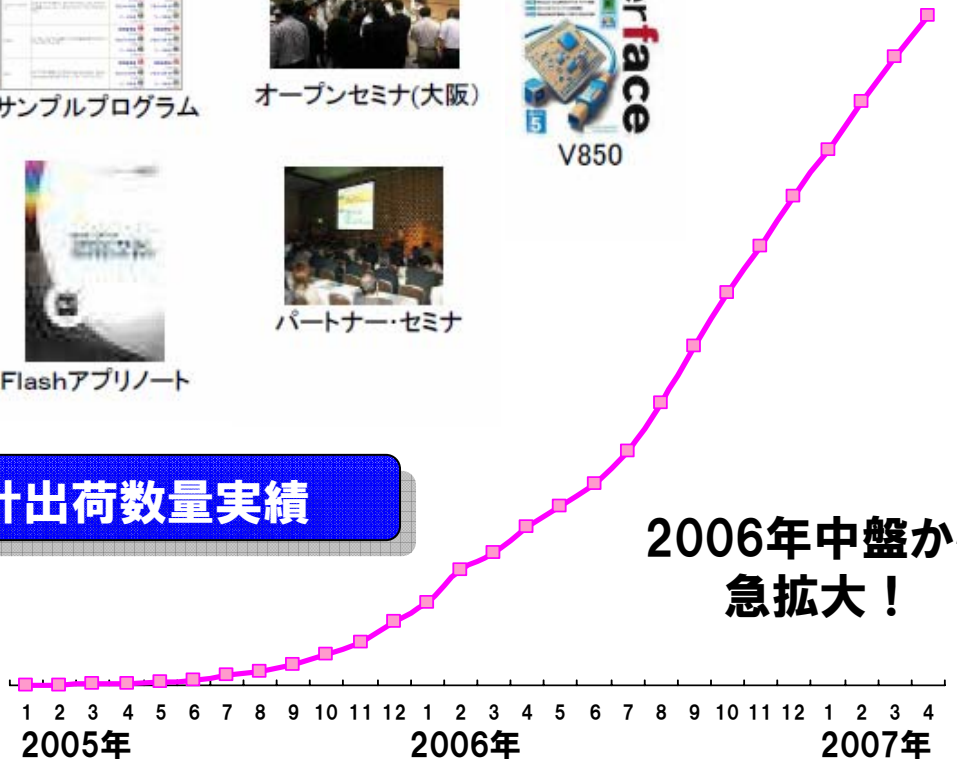
ZigBeeデモ


いろは姫

Flashアプリノート

パートナー・セミナ

オールフラッシュマイコンの累計出荷数量実績



2006年中盤から急拡大！

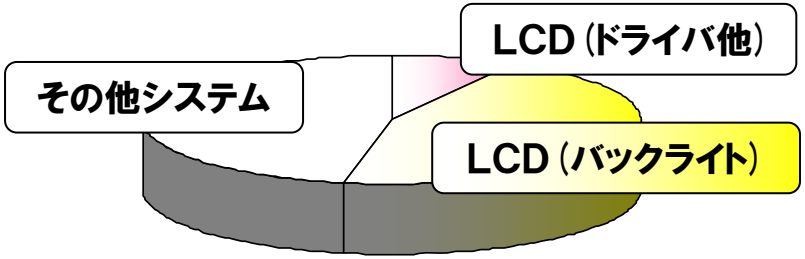
ビジネスハイライト： 個別半導体

NEC

モバイル機器向けLCDバックライトコントロール技術を開発
～　同IPを搭載した究極の低消費電力小型LCDドライバによる付加価値ビジネス　～

携帯電話端末全体の消費電力の約4割をLCDバックライトが消費

- ✓ ワンセグ放送、動画、3Dグラフィック等のケータイ表示コンテンツの進化
- ✓ 消費電力 ⇔ 画質（バックライト輝度等）のトレードオフ関係



（携帯電話のブロック別消費電量内訳　当社調べ）

独自差異化技術による高付加価値製品プレミアム

- ✓ LCD表示画像に応じて最適なバックライト輝度やγカーブをリアルタイム制御
  画質低下を抑え最大50%（システム全体の20%）の消費電力を削減可能
- ✓ 国内外の大手携帯電話メーカにデザインイン

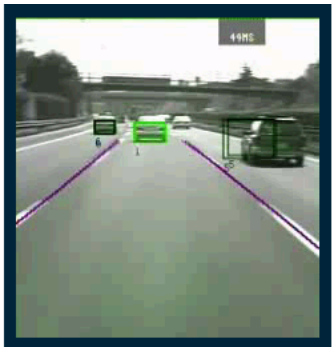
ビジネスハイライト：次世代テクノロジ

画像認識並列処理プロセッサ　IMAPCAR

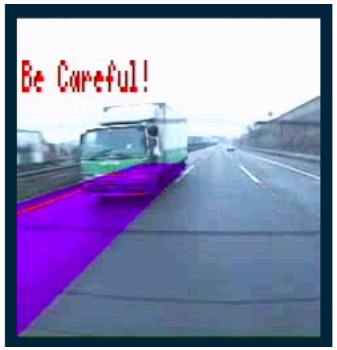
トヨタ自動車、デンソー、NECとのコラボ開発

- ✓ 128個の演算ユニットによる並列処理で1000億回/秒の演算性能により
  白線、先行車、歩行者などの画像をリアルタイムに認識
- ✓ レクサス「LS460」のプリクラッシュセーフティ機能用画像認識LSIとしても採用

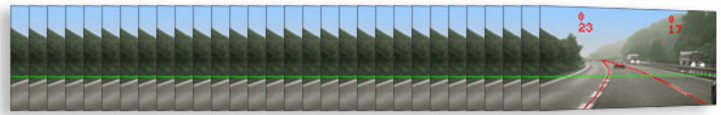
白線・前方車認識



後側方車認識



30フレーム/秒の認識処理



日刊工業新聞社「第4回モノづくり部品大賞」を受賞